



使用上の注意事項

SPD (Surge Protective Device)



1. 通信・信号・電話回線に使用される場合は、
R・A・V-L-Aシリーズ、R・A・V-LDシリーズ、RA-C6シリーズからご選定下さい。

(選定方法 例)

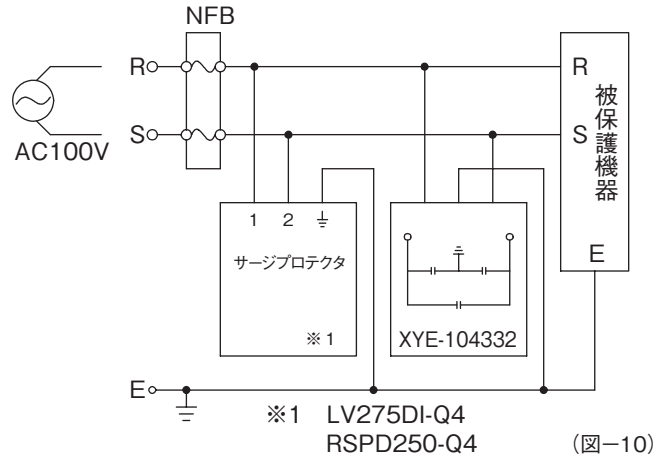
- ① 回線電圧が48VDCの場合
R・A・V-L-A、LDのとき、クランプ電圧値を求めるには、
 $48V \times 1.2 \times 1.1 = 63.36V$
マージン↓ ↓ クランプ電圧公差
この値よりも大きいクランプ電圧を選択します。
従って、R・A・V-L-Aの場合はR・A・V-091L-A、R・A・V-LD
の場合はR・A・V-221LDとなります。
- ② 回線電圧が50VDCで、仮りにベルのリング電圧
120VACが50Vに重畳されている場合、
 $50V + 120 \times \sqrt{2} \div 2 = 220V$
 $220V \times 1.2 \times 1.15 = 304V$ となりますので、
マージン↓ ↓ 放電開始電圧公差
従って、RA-C6の場合は、RA-311P-C6となります。

2. AC電源ラインに使用される場合、サージプロテクターシリーズよりご選定下さい。R・A・V-L-A、LD等の単体では、電源ラインにそのまま使用できません。

LV-Q4	SV-U4
RSPD-Q4/5	LV-U4
R・A・V-BWZ-3C	RSPD-U4/5
R・A・V-LDEZ	R・A・V-BXZ-3C

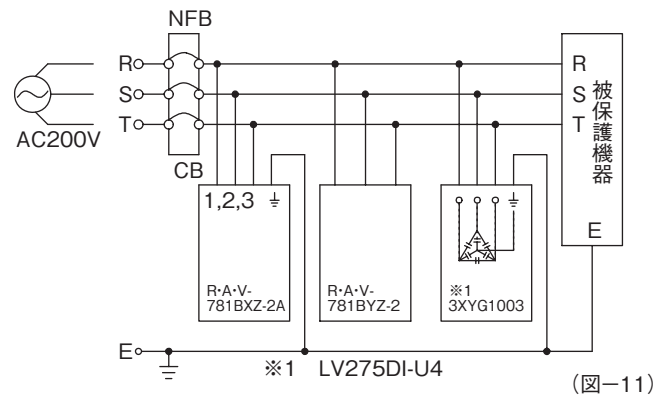
をご使用下さい。
又、当社ノイズサプレッションキャパシタ、XYEキャパシタを併用しますとより効果を発揮できます。

■ サージプロテクタの使用方法
AC100V単相電源を使用する被保護機器には、電源の入力段で、ヒューズ又は、NFBの後段の図-10に示すようにサージプロテクタを結線して下さい。
ノイズサプレッションキャパシタの品種であるXYEシリーズを併用して使用すると過大な雷サージをサージプロテクタが吸収すると同時に、過渡電流をXYE-104332のコンデンサで緩和できます。しかもノイズ対策に有効です。



- AC100V単相用サージプロテクタ例
LV275DI-Q4/5 RSPD-150-Q4/5
R・A・V-401LDEZ R・A・V-401BWZ
- AC200V単相用サージプロテクタ例
SV-U4 RSPD-250-Q4/5
LV275DI-Q4 R・A・V-781BWZ、-3C
R・A・V-781LDEZ

● AC200V3相電源を使用する被保護機器にも、同様な考え方でサージプロテクタを結線できます。当社ハイパルスキャパシタ3XYG1003を併用することで、過渡電流やノイズ対策に有効です。(図-11)



- AC200V3相用サージプロテクタ例
SV275DA-U4 LV275DI-U4
RSPD250-U4

注) サージプロテクタを被保護機器にセットして耐電圧試験をしないで下さい。この試験を実施する場合には、サージプロテクタの接地線を接地、G又はFGラインより取り外して下さい。